



一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM PRODUCTION COMPANIES

2024年7月12日 総務省 公共放送WG発表
「ATPの海外プロジェクトについて」

一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟 理事

一般社団法人 ATDC代表

沼田 通嗣

NPO法人 Tokyo Docs 理事長

天城 靱彦

1. はじめに～ATP海外プロジェクトの目的
2. 日本の実写コンテンツの現在地
3. ATPの海外プロジェクト
4. アジアコンテンツアワード連携～パートナーシップ締結
5. 日韓中テレビ製作者フォーラム
6. Tokyo Docs
7. アジアテレビドラマカンファレンス
8. 海外プロジェクトの共通課題とATP提言
～参考資料: ATPとは

1. はじめに～ATP海外プロジェクトの目的

ATPは放送局と共存共栄の関係であり、主に“実写コンテンツ”を製作している団体です。

日本のコンテンツの海外売上のジャンル別比率は、ゲーム・アニメが90%、実写コンテンツは僅か3%であるデータが公開されています。この要因には「創り手」だけでは解決できない実態があります。

そこでATPでは、国際競争力を高めるグローバルコンテンツ製作を実現するために、その起点づくりとして4つの海外プロジェクトを推進しています。

しかしながら、現活動だけでは、持続力やエコシステムが確立せず、課題解決には時間を要します。日本のコンテンツ産業の重要な分野である実写コンテンツの未来のために、今こそ官民が連携し向上させる時と言えます。

2. 日本の実写コンテンツの現在地 ①

新しい資本主義実現会議(令和6年4月17日)で、岸田総理をはじめ、構成員より、製作会社やクリエイターへの対価還元や海外進出に言及、問題提起がされた

岸田総理コメント 第26回「新しい資本主義実現会議」首相官邸HPより抜粋

- ・ 海外展開を促進するため、国際見本市や国際映画祭における出展機能や、海外への進出に際しての製作会社に対するビジネス展開の支援の抜本強化、そして、若い人に対する留学支援や国内での学びの場の整備などを実施いたします
- ・ 官は環境整備を図りますが、民のコンテンツ制作には口を出さないという、官民の健全なパートナーシップを築くことを目指して、この春の実行計画の改訂に向けて、政府を挙げて、官民連携によるコンテンツ産業活性化戦略を策定していきます

構成員意見 内閣官房HP 資料2:論点案 (放送番組・音楽等の世界に通用するコンテンツの制作・流通)より抜粋

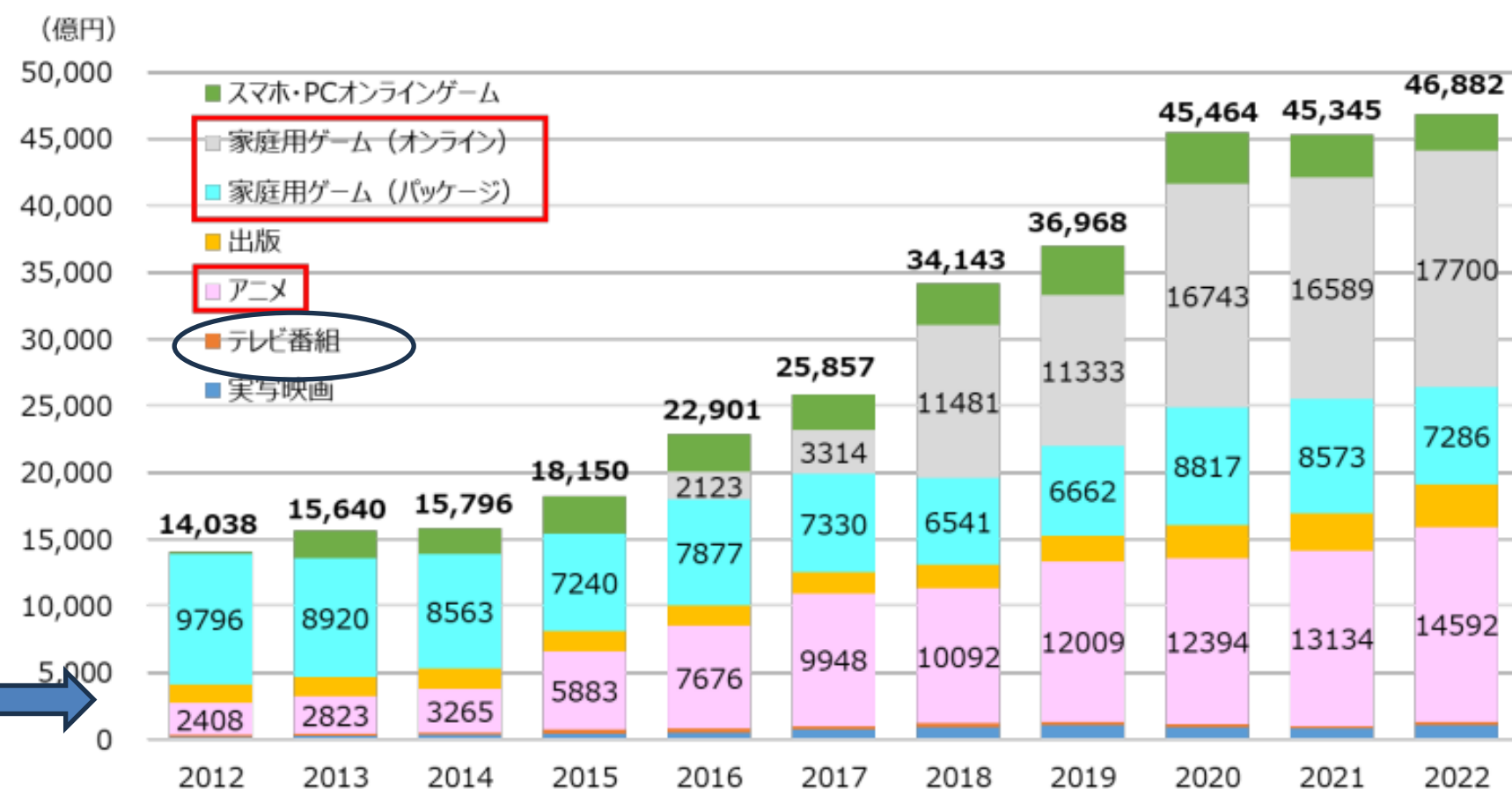
- ・ 世界に通用する放送コンテンツの制作・流通を推進し、クリエイターへの適切な対価還元を実現するため、クリエイターのための4K設備等の利用環境整備、4K制作技術等のノウハウ習得のための人材育成や権利処理効率化を支援すべきではないか
- ・ 海外向け放送コンテンツの制作・流通を円滑化するため、国内外への展開に向けた共同の配信機能強化を後押しすべきではないか

日本の実写コンテンツの現在地 ②

日本のコンテンツ産業は、輸出額などの海外展開において鉄鋼産業に匹敵し、半導体産業に迫る勢いの **4.7 兆円規模**と大きなビジネスとなっており、多くの外貨を獲得する**基幹産業**として位置付けられるようになっている。しかしながら、海外売上の内訳はアニメ・ゲームが90%、**実写(映画・テレビ)**は**僅か3%**の現状。

① コンテンツの海外展開

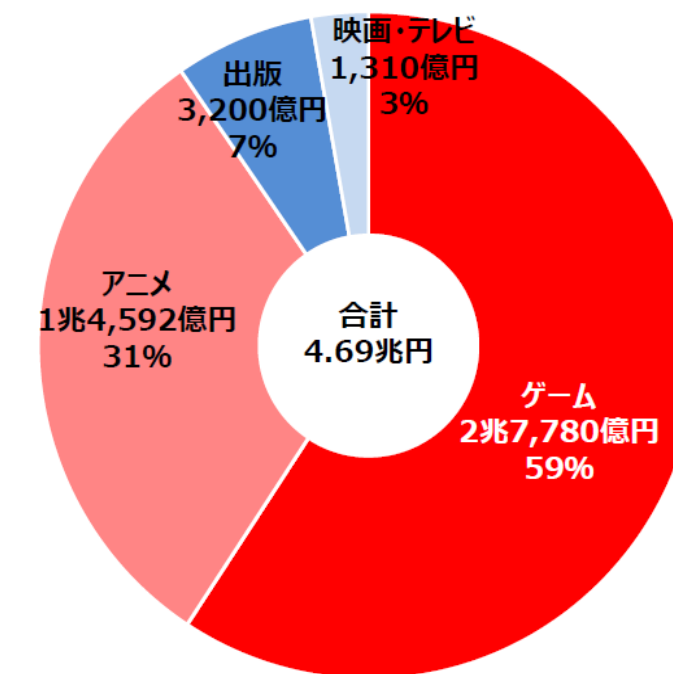
日本のコンテンツの海外における売上の市場規模は、アニメやゲームを中心に拡大してきており、4.7 兆円（2022 年）となっている（2012 年（1.4 兆円）比：約 3.3 倍）²⁵。これは海外展開（輸出額）において、鉄鋼産業に匹敵し、半導体産業に迫る規模²⁶である。



コンテンツ 日本のコンテンツの海外売上のジャンル別構成比 ※音楽除く

○ 日本のコンテンツの海外売上のジャンル別の割合は、ゲームが59%、アニメが31%、出版が7%、映画・テレビが3%。

日本コンテンツの海外売上のジャンル別の割合（2022年）
（単位：億円）



（資料） 「日本と世界のメディア×コンテンツ市場データベース 2023」（株）ヒューマンメディア）をもとに作成

【図表2 日本のコンテンツの海外市場規模とジャンル別内訳】

（注）音楽の海外輸出額は含んでいない。
（出所）株式会社ヒューマンメディア「日本と世界のメディア×コンテンツ市場データベース2023」（2023年12月31日）を基に作成。

3



国内放送局収入減 → 制作費減 → 番組劣化
＝ 国際競争力を持たないコンテンツとなる

コンテンツ

テレビ局の広告収入と番組制作費

○ テレビの東京キー局すべてにおいて、過去6年間で、**広告収入が減少**し、これと相関して、**番組制作費も減少**。

広告収入、番組制作費の推移（単位：億円）

	2016年度		2022年度	
	広告収入	番組制作費	広告収入	番組制作費
日本テレビ	2,558	980	2,369 (▲189)	875 (▲105)
テレビ朝日	1,956	908	1,720 (▲236)	773 (▲135)
TBSテレビ	1,716	982	1,629 (▲87)	952 (▲30)
テレビ東京	810	403	730 (▲80)	334 (▲69)
フジテレビ	2,015	882	1,604 (▲411)	721 (▲161)

3. ATPの海外プロジェクト

- (1) 韓国・釜山国際映画祭併設『アジアコンテンツアワード (ACA)』
は、2023年秋にパートナーシップを締結
(対象:全ジャンル 相互のアワード作品審査提携 ATPより審査委員派遣)
- (2) 日韓中テレビ製作者フォーラム
(対象:全ジャンル 共同主催:ATPとNPO法人 放送批評懇談会
韓国PD連合会・中国電視芸術家協会)
- (3) Tokyo Docs(ピッチングイベント)
(対象:ドキュメンタリー 共同主催:NPO法人 Tokyo DocsとATP)
- (4) アジアテレビドラマカンファレンス
(対象:ドラマ 主催:石川県七尾市 主管:一般社団法人 ATDC 共催:ATP)

4. 釜山国際映画祭併設『アジアコンテンツアワード』連携 ATP SINCE 1982

— 目 的 —

- 2023年秋、日本の団体で初めてパートナーシップを締結
- アジアコンテンツによるクリエイター交流
- ATP会員社作品のグローバル化
- 2024年8月 ATP賞受賞式に来日予定



5. 日韓中テレビ製作者フォーラム <https://www.atp.or.jp/overseas/jkc-forum.php>



主 催: ATPと放送批評懇談会の共同事務局

※放送人の会から2022年にATPが引き継ぎ、主軸をビジネスマッチングへ。
2025年は日本がホスト国になり韓国・中国を招待する予定

目 的: 北東アジアを牽引する3か国が文化的チャンネルでクリエイター交流を行い、共同製作等を目指す

韓 国: 韓国PD連合会

中 国: 中国電視芸術家協会

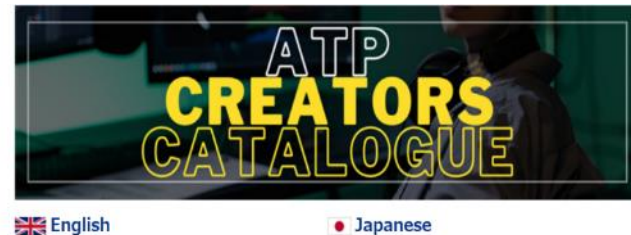
開催・予定: 2022年日本 2023年韓国京畿道坡州市 2024年中国杭州

※2023年 韓国開催: 日本・テレコムスタッフ ドキュメンタリーピッチング / ABCリブラディレクターQ&A 吉本興業クリエイター 講演



第20回(2022年)日本オンライン開催：日韓中テレビ製作者フォーラム ATP SINCE 1982

各国交流にあたり、日本の製作会社・クリエイターPR 『ATPクリエイターズ電子カタログ』を作成



[日本語版 ATPクリエイターズカタログ](#)

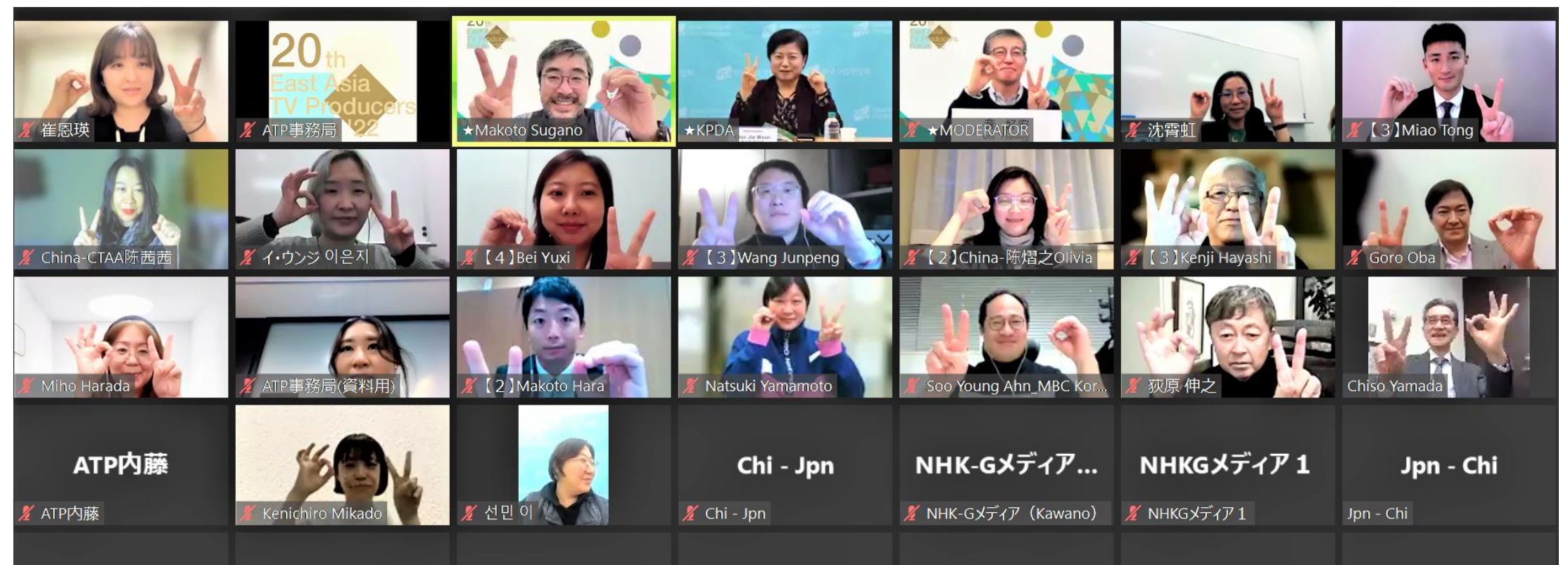
[英語版 ATPクリエイターズカタログ](#)

- ◆テーマ・プログラム:
 - シンポジウム 「ヒットコンテンツの新潮流」
 - ワークショップⅠ「日韓中 トップランナーたちと探る国際協業の可能性」
 - ワークショップⅡ「今、注目のメディア～中国配信メディア」

◆参加者:約200名

◆日 時 :2022年12月6日

◆日本オンライン開催



第21回(2023年)韓国開催：日韓中テレビ製作者フォーラム

- ◆テーマ：「ノンスクリプト」
- ◆参加者：約300名
- ◆日時：2023年11月8日(水)～11月11日(土)
- ◆場所：韓国京畿道坡州出版市
- ◆プログラム
 - 1日目 マスタークラス講演
NETFLIX・IDA国際ドキュメンタリー協会
 - 2日目 ドキュメンタリーピッチング&フィードバック
日本から2作品参加 三か国パネルディスカッション
 - 3日目 エンタテインメント グローバルOTTヒットプログラムの事例
日本から2社参加
NETFLIX韓国ドラマロケ地ギャラリーで懇親
 - 4日目 DMZツアー



6. Tokyo Docsとは

<https://tokyodocs.jp/>

TokyoDocs

Go Beyond Yourself with Docs !
自分の枠を超えて世界とつながろう！

- ドキュメンタリーの国際共同製作など国際展開を支援するプラットフォーム
- 毎年1回、ピッチングフォーラムを開催して、ドキュメンタリー制作者と海外のプロデューサーのマッチングをはかる
- 人材育成のためのワークショップやマスタークラスも開催
- 日本の製作会社の中堅プロデューサーがボランティアで運営

【Tokyo Docsの設立趣旨と歴史】 <https://org.tokyodocs.jp/>

【“ピッチング”とは】



- 企画をプロデューサーに提案すること
- ピッチャー＝ディレクター、キャッチャー＝プロデューサー
- 特に国際共同製作のためのピッチングセッションでは、テレビ局、配信プラットフォーム、配給会社などで決定権を持つプロデューサーを“デシジョンメーカー”と呼んで提案の受け手として招聘する

➡ なぜ“ピッチング”か

- 国内にドキュメンタリー枠が少ない
= 資金は海外調達
- グローバルコンテンツを目指す



【目標】

- ①国際共同製作を仕切る製作会社所属の国際プロデューサー10人育成
- ②Tokyo DocsをオランダのIDFAやカナダのHot Docsと並ぶ、ドキュメンタリー国際共同製作のハブに育てる

【目標達成度】

- ①国際プロデューサー10人育成➡達成
国際共同製作を経験するプロデューサーが増えた。
Colors of Asia(*)でアジアの制作者と共同製作することでも経験を積んだ。

* Colors of Asiaは、NHKとの共同製作プロジェクト。アジアの制作者の企画に日本の製作会社がパートナーとして参加。NHK・BSでの放送を目指すとともに、欧米メディアとの共同製作による幅広い海外展開の実現をめざすスキーム。

- ②国際共同製作のハブ化➡課題あり
事業規模、影響力などで課題が多い。競合するアジアのドキュメンタリー祭に負けない努力が求められる。

- ・応募企画数：**1000本**以上
- ・ピッチした人：**500名** (延べ人数) 以上の制作者
- ・**80本**以上の企画が国際共同製作を含む国際展開を実現

例：テレビ局で放送
配信プラットフォームで配信
海外映画祭で上映
国内外で劇場上映



Tokyo Docs 2023の様子

Tokyo Docs 主な成果事例①

「波の向こう」(Tokyo TV Forum 2011 ※Tokyo Docsの前身)

- ・浪江町に住む叔母を主人公に、震災被災者の白黒つけがたい複雑な胸の内を描く。
- ・BBC(イギリス)、WDR(ドイツ)、SVT(スウェーデン)、Knowledge Network(カナダ)など7カ国と共同製作。
- ・震災をテーマにした7カ国参加の大型共同製作。



「RED CHILDREN」(Tokyo Docs 2015)

- ・中国の文化大革命に欧米人の子女が紅衛兵として参加していた知られざる事実を50年ぶりに明らかにした。
- ・テムジン、NHK、NHKエンタープライズ、DOCDAYS Productions(ドイツ製作会社)で共同製作。
- ・NHKでの放送の他にドイツを中心にヨーロッパ各国の多くのテレビ局で放送された。



「私だけ聴こえる」(Tokyo Docs 2016)

- ・聴覚障害者の家族の中で唯一の健常者として生まれたCODA (Child of Deaf Adults)と呼ばれる子どもたちの苦悩と夢を描く。
- ・テムジンとカナダの制作会社がNHKと共同製作。日本とカナダで放送された。



Tokyo Docs 主な成果事例②

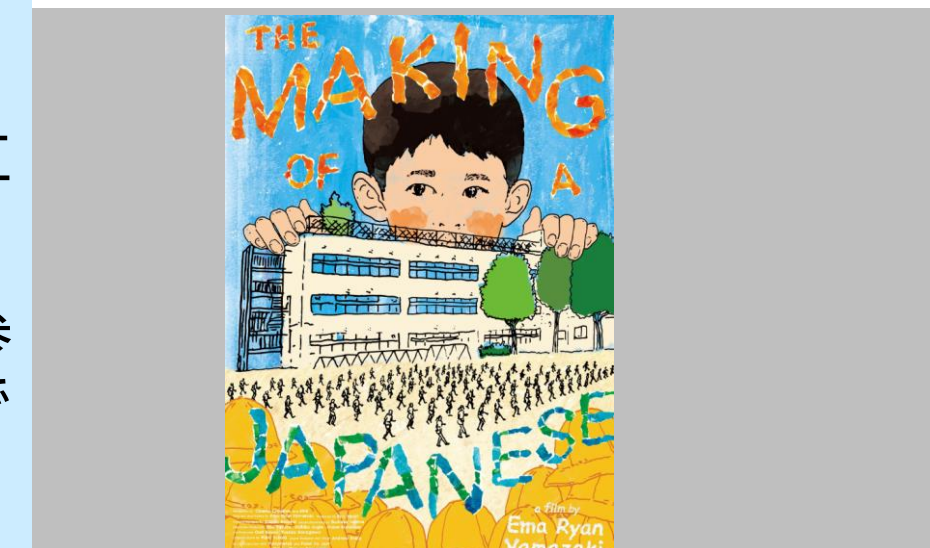
「Hope Frozen」(Tokyo Docs 2017)

- 2歳で亡くなった娘が医学の進歩により蘇る日を信じて遺体を冷凍保存することにしたタイの家族の物語。敬虔な仏教徒が何故このような選択をしたのかを追う。
- タイの製作会社と中国の配信サイトbilibiliの国際共同製作。カナダで開催される北米最大のドキュメンタリー祭Hot Docsで最優秀作品に選ばれて上映されたのちにNetflixで世界配信。
- 国際エミー賞2021を受賞。



「The Making of a Japanese」(Tokyo Docs 2021)

- 日本人の特性は小学校教育で形成されるというディレクター自身の経験に基づき、東京の公立小学校の1年生と6年生のクラスに1年間密着。
- Cineric CreativeとNHKが共同製作して「わたしの学校」を放送。フランス、フィンランドが参加する共同製作で長編版を制作。東京国際映画祭でプレミア上映し、フランスとフィンランドでも放送。



「Shaking up Sake」(Tokyo Docs 2022)

- 山口県の酒蔵とアメリカの大農場が手を組みニューヨークで日本酒を醸造し世界の食卓に革命を起こす
- リトルネロフィルムズと台湾CNEXとNHKの共同製作。
- NHKで国内版を2024年3月に放送。
- 国際版を台湾CNEXと共同製作中。



①国際共同製作の変化

メディアの転換(テレビからネットへ) / デシジョンメーカーの弱体化

②アジアの競合イベントとの連携

韓国、台湾、中国、インド、インドネシア

③運営と支援の資金確保

Tokyo Docs運営費+制作者支援金総計
2023年度 4700万円

—参考事例—

韓国 K-DOCS

- 主催: EIDF+EBS
- 後援: KCA(Korea Communications Agency)
HUNDAI HOME SHOPPING
- 運営費+制作者支援金総計:

110万ドル=1億7600万円



7. アジアテレビドラマカンファレンス

<https://www.atdc2023.org/>



主催：石川県 七尾市（2023年）※地方＋コンテンツカンファレンス

主管：一般社団法人 ATDC (Asian Tv Drama Conference) 共催：ATP

目的：日本の脚本家、市川森一氏と韓国のプロデューサー、シン・ヒョンテク氏が「テレビドラマの脚本家や製作者が相容れることで、アジア全地域に歓迎されるドラマ創りや、ハリウッドを越える文化コンテンツ産業のセンターを創り、アジアから世界に文化を発信する」ことを目的として2006年から韓国のKOFICE（韓国国際文化交流院）の主催で開始

開催：第15回 2023年2月 第16回 2023年12月

場所：加賀屋姉妹館「あえの風」国際会議場 石川県七尾市和倉温泉

参加：9か国より 各回約300名

参加国及び地域：日本、韓国、中国、タイ、台湾、インドネシア、フィリピン、マレーシア、イギリス

協力：全日本テレビ番組製作社連盟 日本放送作家協会 日本脚本家連盟
日本シナリオ作家協会 地域企業連合会九州連携機構
韓国放送作家協会 韓国ドラマ制作社協会 中国北京映画芸術協会ほか



運営の変遷（アジアテレビドラマカンファレンス）

韓国のコンテンツ政策資金で開始された

◇2006年スタート時

- ・ 韓国の目的は「日本のドラマ制作に追い付くため」
- ・ 運営はKOFICE（韓国国際文化交流院）が行い、資金は韓国の国家予算

◇2018年

- ・ 開催予算が韓国の国会で否決、理由は「日本を追い抜いたから」

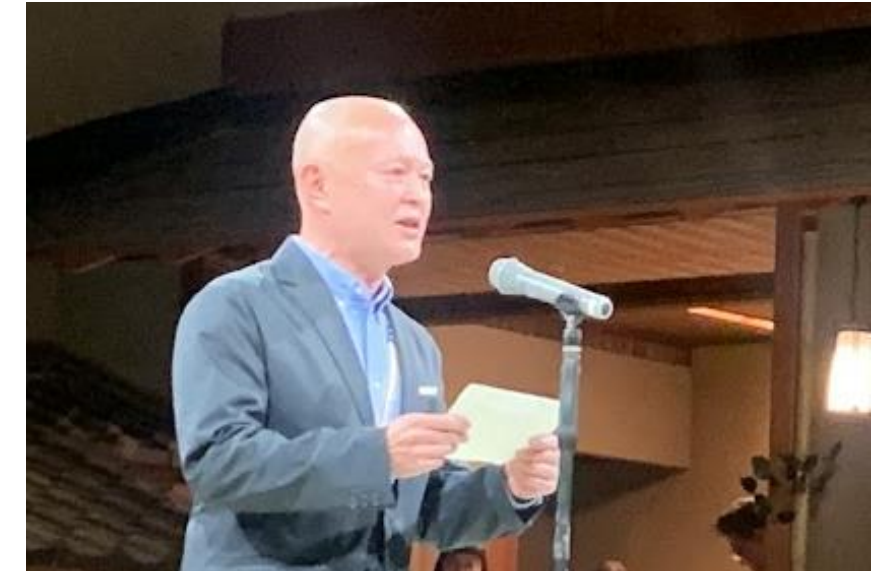
◇2019年

- ・ Netflix Koreaより「今後 韓国のドラマ界にお世話になるので」との資金提供で開催 その後一旦終了

◇2023年 2月・12月

- ・ 今度は日本が「韓国に追い付くことを目的に」石川県七尾市主催で開催。ATDCが主管となり「企業版ふるさと納税」や協賛等を資金に再開。9か国から七尾市に来訪。ロケ地ツアー等で地域活性化も担う

◇2024年は韓国開催予定 韓国ドラマ制作社協会の資金調達で再開予定



七尾市開催の内容（アジアテレビドラマカンファレンス）



- ・各国ピッチング
- ・各国制作者セッション
- ・若手クリエイターセッション
- ・制作者ディスカッション
- ・スピーチ
- ・各国作家セッション
- ・作家ディスカッション
- ・制作者 作家交流パーティ
- ・プレスインタビュー
- ・ビジネスマッチング
- ・協賛企業スピーチ
- ・協賛ブース
- ・開催地名物アクト
- ・開催地ロケ地ツアー
- ・その他

時間	エントランス/フェスティバルホール/花舞茶寮	ロビーラウンジ
8:30 ~ 9:15	七尾市民参加イベント 受付開始・開場	
9:15 ~ 9:25	七尾市長挨拶	
9:25 ~ 11:25	第一部 「君は放課後インソムニア」上映会	
11:30 ~ 12:30	第二部 トークショー	
12:00 ~	参加者到着開始&受付 (~ 13:30)	
12:30 ~	昼食 @ 1階レストラン波の花 (~ 14:30)	
14:00 ~ 14:30	オープニングピッチング	
14:30 ~ 15:30	参加者紹介ピッチング	
15:30 ~ 16:00	スペシャルピッチング①	
16:00 ~ 16:30	スペシャルピッチング②	
16:30	休憩	
17:30 ~ 18:30	能登空港午後便 参加者到着&受付	
18:30 ~ 21:30	オープニングセレモニー&ウェルカムパーティ @花舞茶寮 ①ウェルカムアクト『七尾まだら』 ②七尾市長挨拶 ③ATDC 代表挨拶 ④歓迎挨拶 (韓国放送作家協会&ドラマ制作者協会) ⑤食事スタート・歓談 ⑥御陣乗太鼓パフォーマンス ⑦協賛企業挨拶	

時間	エントランス/フェスティバルホール/花舞茶寮	ロビーラウンジ	でか山	ホワイエ
9:00~9:15	本会議開会 (OP 映像) 及び 参加者紹介			
9:15~9:20	市川森一脚本賞財団 スピーチ			
9:20~9:40	Session 1-1 中国制作者			
9:40~10:00	Session 1-2 日本制作者			
10:00~10:20	Session 1-3 韓国制作者			
10:20~10:50	制作者セッションディスカッション			
10:50~11:20	協賛企業ピッチング①			
11:20~12:00	若手クリエイターセッション：韓国			
12:00~13:00	昼食 (弁当)			
13:00~13:20	参加者 1 min ピッチング× 15 名			
13:20~13:50	協賛企業ピッチング②			
13:50~16:15	休憩	ビジネス マッチング 13:50-16:15	協賛企業 BtoB	協賛ブース
16:15~16:35	Session 1-1 中国作家			
16:35~16:55	Session 1-2 日本作家			
16:55 ~ 17:15	Session 1-3 韓国作家			
17:15 ~ 17:45	作家セッションディスカッション			
17:45 ~ 18:00	統括スピーチ			
18:00 ~ 18:15	Libelante / 登壇挨拶・紹介			
18:15 ~ 18:30	記念撮影			
19:00 ~ 21:00	夕食バイキング			

喫緊の課題（アジアテレビドラマカンファレンス）

前提：ドラマ製作者育成、および1作品の完成には数年かかる、
ガラパゴス化からの脱却

- ① **現役製作者**の育成と意識改革
- ② グローバルコンテンツ制作の起点作り
- ③ 国際競争力の強化 = **分散の一元化**
- ④ **資金調達**～受注だけではないコンテンツビジネスへの取組み
- ⑤ **著作権保有の向上**

→製作会社だからこそできる海外展開がある



1. 日本のコンテンツ力強化のため、創り手への還元がなければ、人材が枯渇、担い手が途絶える。
国際競争力強化どころか、コンテンツ産業の衰退を招く。
2. 多様なコンテンツを生み出す土壤が失われ、視聴者利益の減少が起こる。
3. 製作会社は、番組を企画製作した当事者だからこそ、詳細な説明や情熱を持ってアピールできる展開力がある。
この展開力を十分に活かすためにも、著作権を保有することが重要である。

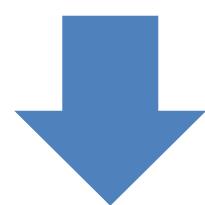
成果①（アジアテレビドラマカンファレンス）

- ・アジア各国のドラマにおける作家、製作者の知見と人脈を共有する交流と学びの場となっている
- ・クリエイティブ、ビジネス、契約や各国の制度（ハリウッドやイギリス等）など多角的な面から作家やディレクターを育成する場となっている

◆韓国成果事例 2007年「テレシネマセブン」（※韓国主導の時期）

韓国が、自国の作家と製作者成長のために、日本と韓国のトップ作家による作品の企画を日本のメディアに持ち込み、ドラマ化の実現をした。

当初韓国は、IP脚本は日本、制作のノウハウはハリウッドから学び、起点とした。



- ## ◆韓国のグッドプラクティスをもとに、世界の中の日本の現在地を謙虚に受け入れ、意識改革と実践に取り組んでいる段階



成果②～地方創生の一環としてのコンテンツ製作

- ・アジアテレビドラマカンファレンスのプレイベントとして、石川県知事、七尾市長等が座談会を開催。七尾市は東アジア文化都市に指名された。第二の安全保障と言われる文化安全保障についても語られ、地域振興とコンテンツ政策について報道された
 - ・最終日のロケ地ツアーの成果として、韓国がドラマ制作ロケ地として候補に上げていたが、震災により休止している状況
 - ・ドラマのロケ地はアニメの聖地巡礼と同様、活性化へとつながる
- ※震災後、被災された皆様に、各国参加者(日本、韓国、タイ、中国)より義援金が届き、七尾市にお届けした

日本のテレビドラマ「質への転換を」 国際会議で議論に

文化経済
2023年12月20日 9:00 (会員限定記事)



会場の日本代表野木氏(中央)、中国のゴン・シャオホイ、韓国のパク・ヘヨンの3名が壇上

「日本のテレビドラマはアジアの中で後れを取っている。世界で戦うためには量から質への転換が必要だ。」「アンチチュラル」「逃げるは恥だが役に立つ」などのドラマで知られる脚本家の野木亜紀子氏はこう訴えた。

日本や韓国、中国を中心としたアジアのドラマ関係者が一堂に会し議論する「第16回アジアテレビドラマカンファレンス(ATDC)」が12月3～5日、石川県七尾市で開催された。そこで浮き彫りになったのは、停滞する日本とチャレンジ精神を発揮する他の国・地域との明らかな違いだった。

とりわけ注目を集めたのは野木氏の指摘だ。日本の問題点として同氏がまず挙げたのは、「早いサイクルでイージー(安易)につくれない」という制作現場の現状だった。日本のドラマ制作本数は年々増加している。野木氏

和倉で語るドラマ発展

「アジアカンファレンス」開幕

アジアなど17の国・地域のドラマ関係者が集まる第16回アジアテレビドラマカンファレンス(ATDC)が3日、七尾市・和倉温泉の旅館「和倉」で開幕した。3日間の日程で、初日は、市を舞台にした映画「君は放課後インソムニア」の実写映画を手がけた他田千尋監督と「和倉」で重宝を磨いた作家安部龍太郎さんのトークセッションがあり、市民約400人が集まった。(大森 誠)

直木賞 安部さんと「君は放課後インソムニア」監督 他田千尋さん

会場は、韓国・ソウル・ソニーのシン・ヒョウテクさんと脚本家の市川森一さんがシアター・ドラマ・レールをめぐり、米ハワード・スターの文化産業の発展を目指して、七尾の発展を期してスタート。七尾は2月の初開催の連続で定例化された。山王社の大森誠氏の講演もあった。4日の本会議で韓国や中国、マレーシア、タイなどの国・地域のドラマ制作や3人が意見交換や発表を予定。5日は能登地学部教授の中野綾子さんが登壇し、方言を語る。

25



- ・国際競争力を高めるために、至急の
現役製作者育成(ビジネスPDや技術的ハイスキル人材育成)
- ・育成事業への資金調達支援
- ・コンテンツ製作への官民連携の支援

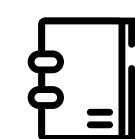
※ATPは本会議以外の様々な場で、若手クリエイターの育成のために、欧米・韓国のような大学等教育機関での高度専門教育や、コンテンツ製作に関する国の専門機関の設置、および国の資金的な継続支援の必要性について提言を行っています

発 足	1982年 42年目の製作社連盟
目 的	テレビ番組の質的向上を図ることによって、放送文化の発展と国民の 文化的生活向上に寄与することを目的として活動
正会員社	製作会社 120社以上 約1万人のクリエイターが加盟
賛助会員社	放送局ほか38社が加盟
ATPの組織	組織戦略センター・メディアセンター・事業センター・関西センター・ 広報推進会議
主な事業	顕彰事業(創り手のための賞「ATP賞」「上方番組大賞」 メディア勉強会 海外プロジェクト 新卒合同採用イベント事業 育成事業 新人合同研修

ATPの主張 [ATPの主張～製作と権利の認識について](#)

- ・ 著作権は創り手にあり
- ・ 適正な制作費の実現
- ・ 二次利用の主体であり、適正な収益の配分を求める
- ・ 製作会社にこそ実現できる海外展開がある

Thank You Contact Us



一般社団法人
全日本テレビ番組製作社連盟（ATP事務局）

Mail: jimukyoku@atp.or.jp

HP : <http://www.atp.or.jp>

X (旧Twitter)



facebook



LINE



Instagram

